

前回定例会（平成 25 年 3 月 6 日）以降の行政の動き

平成 25 年 4 月 10 日
新潟県原子力安全対策課

1. 安全協定に基づく状況確認

3月11日、柏崎市・刈羽村とともに、月例の状況確認を実施しました。

[主な確認内容]

- ・ 7号機 原子炉建屋 T I P（移動式炉内計装系）室の現場
- ・ BWR 運転訓練センター 訓練状況の確認

2. 安全管理に関する技術委員会

安全管理に関する技術委員会では、福島第一原子力発電所の事故の検証を進めています。

3月14日、平成24年度第7回の技術委員会を開催し、平成24年度の議論の整理となる「福島第一原子力発電所事故を踏まえた課題（案）」について座長からご説明いただき、議論していただきました。

その後、この議論を踏まえて報告書を取りまとめ、3月29日、鈴木賢治座長から知事へ報告して頂きました。

なお、検証の重要事項については、今後も議論を継続することとしております。

3. 原子力防災訓練の実施

3月23日、原子力防災訓練を実施しました。（※別途、ご説明致します）

4. 環境監視評価会議の開催

3月28日、第58回新潟県原子力発電所周辺環境監視評価会議を開催し、平成25年度の柏崎刈羽原子力発電所周辺の放射線や温排水の調査計画を策定しました。また、この調査とは別に実施している福島第一原子力発電所の事故に伴う放射線等の調査結果について評価をいただきました。

[平成24年度の福島第一原子力発電所の事故に伴う放射線調査の評価]

- ・ 本県のこれまでの調査結果から、健康に影響のない放射能レベルであると考えられる。
- ・ 県民の放射能に対する不安を払拭し、安心を醸成するためにも、水道水、乳児用ミルク、牛乳及び乳製品や、放射性セシウムが検出されている海底土及び河川底質の調査を年間を通じて継続し、それぞれの濃度推移を確認していくことが重要である。
- ・ 県内でもキノコ、野生獣、淡水魚などの一部で比較的高い放射性セシウムが検出されているものもある。また、野生きのこ及び野生獣の一部では基準値を超過し、出荷規制等の措置を受けているものもあることから、季節に応じて調査項目の重点化を図り、効果的な検査を進めていくべきである。

5. その他

3月19日：報道発表〔1号機の燃料集合体でウォータ・ロッドの曲がり確認されたと連絡を受けました〕

東京電力から、柏崎刈羽原子力発電所5号機で見つかった不具合事例を受け、他の号機で同様な事例がないか確認作業を実施していたところ、1号機において6体の燃料集合体でウォータ・ロッドの曲がり確認され、内1体はウォータ・ロッドと燃料棒が接触していることが確認されたと、連絡を受けました。

当該燃料集合体は、過去に使用され、現在は使用済燃料プールで保管されているものであり、現在、安全上の問題はないとのことでした。

県は、東京電力に引き続き慎重に点検調査を行い、原因究明することを求めました。なお、県が実施している発電所周辺環境放射線モニタリングにおいて、異常は認められておりません。

4月5日：報道発表〔「新潟県原子力発電所の安全管理に関する技術委員会」鈴木座長退任に係る知事コメント〕

「新潟県原子力発電所の安全管理に関する技術委員会」の鈴木賢治座長には、委員会の発足以来、10年もの長い間、委員をお引き受けいただきました。

このたび、委員の改選時期にあたり、事務局から再任をお願いしたところ、新たに就任される新潟大学教育学部長の職務に専念されたいとのこと、固辞されたと聞いております。

これまでの県の原子力安全対策への助言・指導に感謝するとともに、今後の一層のご活躍を祈念しております。